

ONSA ニュース

No. 27-1

平成 29 年度定時会員総会報告	1
第 62 回放射線科学研究会聴講記	3
第 34 回みんなのくらしと放射線展	12

一般社団法人 大阪ニュークリアサイエンス協会
〒542-0081 大阪市中央区南船場 3-3-27
TEL: 06-6282-3350, FAX: 06-6282-3351
e-mail: onsa-ofc@nifty.com
URL: <http://onsa.g.dgdg.jp>
発行: 平成 29 年 6 月

平成 29 年度定時会員総会報告

一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会(以下 ONSA)は5月29日(月)大阪大学中之島センターにおいて平成29年度 ONSA 定時会員総会を開催致しました。出席できなかった会員各位のために、定時会員総会・ONSA 賞授与式及び交流会の内容を簡単に報告します。

今年度の定時会員総会は ONSA が新公益法人改革制度で「一般社団法人」へ移行後 5 回目の定時会員総会、一般社団法人化の新定款の施行による「会計報告」では4回目となりました。監督官庁からの指示もあり昨年度の定時会員総会に引き続いて、今年度も本定時会員総会で定款の一部修正案を提出しました。

定時会員総会は、義家専務理事の開会宣言により開始しました。豊松会長が急用で欠席したため、遠藤副会長の挨拶、本総会の参加者数の確認(議決権をもつ会員59名で委任状を含めて出席者46名)と進み、続いて遠藤議長の進行で以下の議事が進められました。

・報告事項

議長の指示により、事務局から議案書に従って、平成28年度事業報告が行われました。

・審議事項 議案

「第1号議案」: 議長の指示により、事務局から平成28年度公益目的支出計画実施報告書(案)・貸借対照表(案)・損益計算書(正味財産増減計算書)(案)・財産目録(案)・貸借対照表及び損益計算書の注記(案)・附属明細書(案)と監査報告について説明が行われ、役員報酬についても変更がないことが報告され、審議の結果「第1号議案」は、原案通り決議されました。



開会の挨拶中の遠藤副会長。

「第 2 号議案」: 議長の指示により、事務局から平成 29 年度事業計画(案)と技術研究会等開催事業(公益目的支出計画企画予定書)継 1 (案)・正味財産予算書(案)について説明が行われ、審議の結果「第 2 号議案」は原案通り決議されました。

「第 3 号議案」: 議長の指示により、事務局から議案書に従って定款一部変更の件(案)について説明が行われました。これは監督官庁からの指示により、定款第 22 条第 2 項と第 40 条第 2 項の「議長」を「会長」へ変更する件で、審議の結果「第 3 号議案」は原案通り決議されました。

以上で全審議が終了し、議長は平成 29 年度定時会員総会の閉会を宣言しました。

総会終了後、平成 28 年度大阪ニュークリアサイエンス協会賞・奨励賞授与式が、同会場にて執り行われ、副会長から、賞状と目録(研究助成金)が授与されました。授賞者と対象課題は以下のとおりです。

- (1) 大阪ニュークリアサイエンス協会賞の授賞者(応用研究・開発部門)
 大阪市立大学 大学院工学研究科 化学生物系専攻 教授 堀邊英夫氏
 授賞対象課題: イオンビーム照射レジストの除去技術の確立とレジスト材料の開発
- (2) 大阪ニュークリアサイエンス奨励賞の授賞者(医療・教育部門)
 金沢大学 医薬保健研究域 附属研究増進科学センター テニユアトラック 助教 小林正和氏
 授賞対象課題: 静注用放射性酸素-15 と持続注入法を組み合わせたラットの脳循環代謝測定法の開発
- (3) 大阪ニュークリアサイエンス奨励賞の授賞者(基礎研究部門)
 京都大学 大学院工学研究科 分子工学専攻 助教 櫻井庸明氏
 授賞対象課題: 粒子線照射が誘起する固相重合反応を活用した機能性ナノワイヤの開拓と粒子線の飛跡検出



ONSA 授賞者堀邊氏と遠藤副会長。



ONSA 奨励賞授賞者櫻井氏(左)、小林氏(中央)と副会長。

続いて別室にて、参加者 33 名による交流会を開催しました。遠藤副会長の開会の挨拶、谷口副会長の乾杯の発声が続いて和やかに歓談、情報交換等が行われました。会員、参与、ONSA 賞授賞者の皆様

を交えて有益な交流会を滞りなく終了することができました。



交流会のスナップ。

第 62 回放射線科学研究会 聴講記

標記研究会は平成 29 年 4 月 14 日（金）午後 1 時半から 5 時半まで住友クラブにおいて、羽鳥聡氏（若狭湾エネルギー研究センター）、齊藤泰司氏（京都大学原子炉実験所）、高井大策氏（環境科学技術研究所）、宮坂靖彦氏（元日本原子力研究所）の 4 名の講師をお招きして開催した。座長は前半 2 件を、岩瀬彰宏氏（大阪府立大学）後半 2 件を見玉靖司氏（大阪府立大学）にお願いした。なお、講演会終了後、講師の先生を囲んで技術交流会を行った。

1. 若狭湾エネルギー研究センター加速器施設の現状

（公財）若狭湾エネルギー研究センター 羽鳥 聡

若狭湾エネルギー研究センター（以下、若狭湾エネ研）は、エネルギー関連技術や地域産業への応用技術の研究、研修などを目的として、1994 年に設立された研究施設である。若狭湾エネ研の大きな特徴は、複数の大型イオン加速器施設を有することである。それは 5MeV タンデム加速器、200MeV 陽子シンクロトロン加速器、200keV マイクロ波イオン源イオン注入装置からなる。本講演では、シンクロトロン加速器への入射器として使われるとともに、イオンビーム分析などにも活用されている 5MeV タンデム加速器と、がん治療臨床研究などに使われてきたシンクロトロン加速器について、その概要とそれを用いた研究について紹介していただいた。